

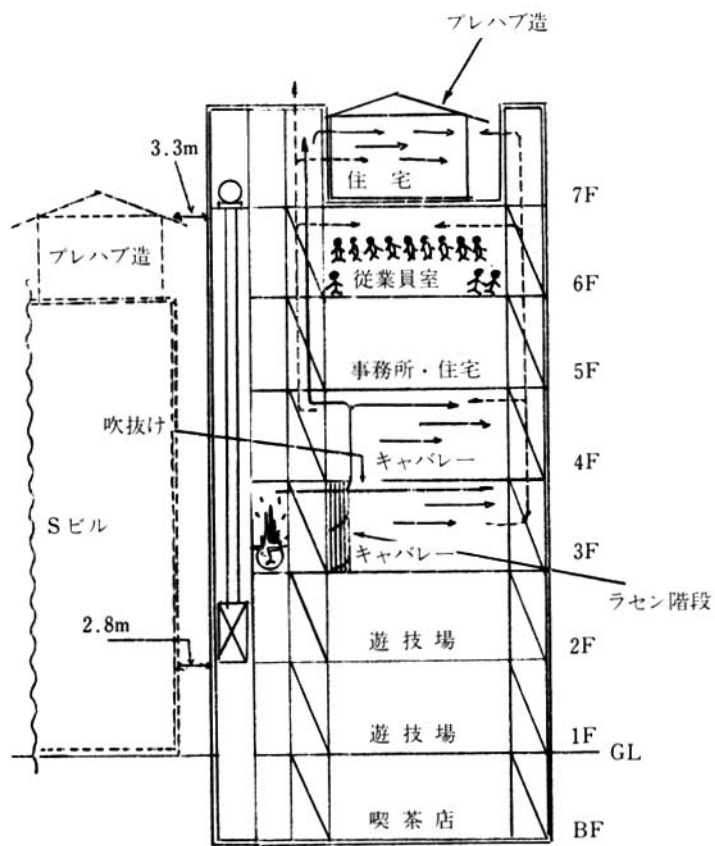
名称 所在	用途 (令別表)	発生日時等	構造・階層 面積	焼損程度 (焼損面積) 延面積	死傷者
金井ビル 川崎市駅前本町 2番地の1	複合用途 (16)イ	昭和41年1月9日	耐火造	全・中・部・小	死者
		出火0時58分ころ 覚知1時3分 覚知別 報知電話 鎮火4時38分	建 200.99m ² 延 1,398.69m ²	691.5m ² (49%)	12名 傷者 14名 (6)

I 火災概要							
① 概要	年も明けてまもない1月9日未明、金井ビルの3階キャバレー更衣室から出火し、区画等の不備や初期火災対応の不備等により上階にいた者12名が一酸化炭素中毒するなど多数の死傷者を出すに至った火災である。本件は全国どこにでもある典型的なペンシルビルであるということと、火災の規模が比較的小規模のわりに多数の犠牲者を出したという特異性により社会の注目を集めた事例である。						
② 階別 状況	階	床面積 m ²	焼損床面積 m ²	用途(売場)	在館者	死者	避難設備等 消防用設備等
	PH	84.36 18.58	84.36	住宅 機械室	4		屋内直通階段 (1F~PH) 2箇所 救助袋 (5F) 1箇所 なわ梯子 (PH) 2箇所
	6	202.41	25.11	従業員住宅 機械室	11	12	消 内 自 誘
	5	202.41	202.41	住宅・事務室・倉庫	5		
	4	177.21	177.21	} キャバレー	17		
	③	202.41	202.41				
	2	202.41		スマートボール			
	1	200.99		パチンコ店			
	B1	192.27		喫茶店、倉庫			
	合計	1,398.69 (1,483.05)	691.5		37	12	
③ 出火場所	(階、室、部位、可燃物状況、居室・非居室、在・不在) 3階の女子更衣室木製ロッカー付近から出火 ○木製ロッカー(40cm角) ○更衣室の区画は合板クロス張り間仕切壁 ○内装可燃 ○出火時ロッカー室を含む3階には人がいなかった。				④ 出火原因	不明火 ホステスの着衣に煙草火が付着したまま取納したか、又はくわえ煙草をしていて更衣の際にロッカーのはしに置きそのまま閉めたのが時間とともに発火したものと推定されるか断定するまでに至っていない。	

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">(出火部位) 3階更衣室内の 木製ロッカー</div> <div style="text-align: center;">(出火室の拡大) 衣類等の収容 可燃物及び 内装</div> <div style="text-align: center;">(他室への拡大) 更衣室の木造 間仕切壁</div> <div style="text-align: center;">(他階への拡大) 天井吹き抜け部分 階段</div> </div>			
	<p>3階の女子更衣室内の木製ロッカーから出火した火は、衣類等の可燃物及び可燃内装のため延焼を早め、合板クロス張りの間仕切壁を延焼し、キャバレー客席の天井吹き抜け部分から4階へと燃えひろがり階段壁の吹き抜け部分から階段室内を燃え上がり、屋上まで延焼拡大していった。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 延焼拡大した主な理由 出火室の区画が木造であったうえ隣に吹抜部があり、内装に防火性がなかったため延焼拡大を早めた。 ○ 煙の伝播経路 キャバレー内吹抜部から上階へ伝播するとともに、階段区画を撤去した表階段3階部分から一挙に上階へ伝播していった。各階の扉は自閉式でなかったため各部屋にも一挙に煙が充満していった。 				
II 火災建物概要				
① 建築	着工・竣工又は主たる改築等 (確認) 昭和35年3月9日 (竣工) 昭和36年4月 日			
管 理 状 況	② 縦 穴 の 状 況	③ 防 火 管 理 状 況		
	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input checked="" type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/> エスカレーター <input type="checkbox"/> その他(吹抜部) <input checked="" type="checkbox"/> <hr/> ○ 3階天井の一部が吹き抜けとなっていた。 ○ 階段2箇所は全て屋内直通階段で扉は自閉装置のないものが大部分であった。	○ 3階4階のキャバレー支配人が全館を通しての防火管理者となっていた。 ○ 防災教育・訓練等はされていなかった。		
管 理 状 況	④ 防 火 区 画 等	⑤ 消 防 用 設 備 等		
	3階部分の階段は、完成検査時に耐火構造で区画されていたものを撤去していた。	○ 3・4階キャバレー部分は避難器具が必要であったが窓を合板でふさいでいたため5階の事務室に代替として救助袋を設置していた。この室は終業後施錠されていた。 ○ 自火報の予備電源の乾電池がなかった。		

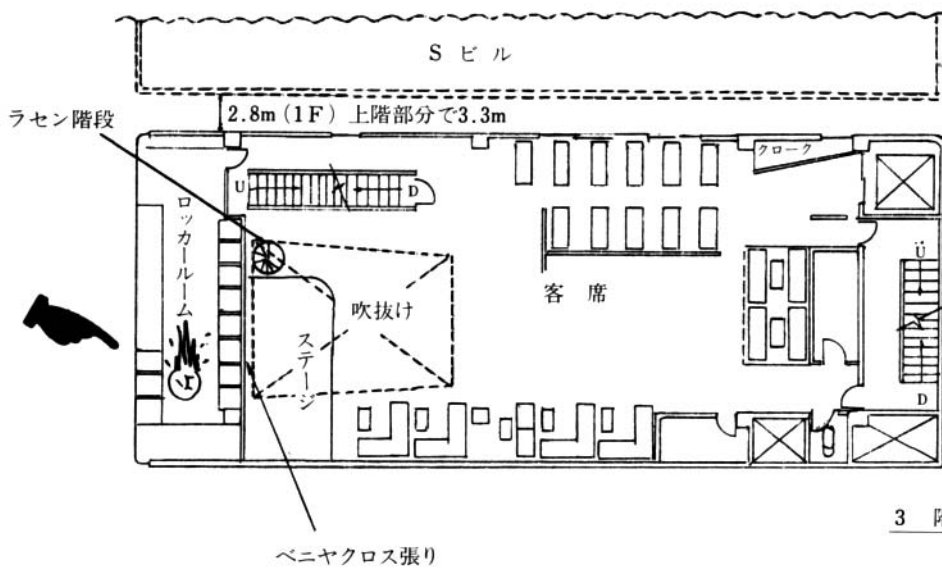
III 火災後の行動						
① 発 見 状 況	<p>○発見者 (チーフボーイ) ○発見の動機 (吹抜部から上がってくる白煙を見て) ○発見後の行動 (他の従業員に知らせる)</p> <hr/> <p>4階客席でキャバレー従業員の新年宴会が終ったあと、17人が残って雑談をしていた。その中の一人チーフボーイO(22才)がふと3階の吹抜部から白煙が上がってくるのを発見し、不審に思ったOは、他の従業員に知らせ、数人で3階に降りてみると、煙はバンドステージ後方の女子更衣室から出ているので、その扉をあけてみて、更衣室天井約3.3㎡が燃えているのを発見した。</p>					
② 通 報 状 況	<p>通 報 した <input checked="" type="checkbox"/> (ビル所有者の妻) 出火後約(5)分 しない <input type="checkbox"/></p> <hr/> <p>5階でまだ起きていたビル所有者の妻と長男は、下でガラスの割れる音にまじって騒々しい物音がするので、長男が降りて行き4階で火災を発見し、すぐ引き返し母に告げている。火災を知らされたビル所有者の妻は、すぐ居室の電話で119番している。</p>					
③ 初 期 消 火 状 況	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">消 火 し た</td> <td style="width: 35%;"> 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input checked="" type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="width: 50%; vertical-align: top;"> (理由又は状況) 火災を発見した従業員達は、手元にあったビールびんを投げつけたり、消火器を放射したり、ある者は階段口の屋内消火栓からホースを引き出して消火しようとしたが、ホースが切離してあったため結合に手間どった上、せっかく延長したホースも火点に届かなかったりして右往左往しているうち、火は更衣室の板張り区画を燃え抜けて、吹抜部から上階に火勢が伸び、濃煙と熱気が充満してきたので消火作業を放棄し、屋外に避難している。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">消 火 し な い</td> <td> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> </td> </tr> </table>	消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input checked="" type="checkbox"/>	(理由又は状況) 火災を発見した従業員達は、手元にあったビールびんを投げつけたり、消火器を放射したり、ある者は階段口の屋内消火栓からホースを引き出して消火しようとしたが、ホースが切離してあったため結合に手間どった上、せっかく延長したホースも火点に届かなかったりして右往左往しているうち、火は更衣室の板張り区画を燃え抜けて、吹抜部から上階に火勢が伸び、濃煙と熱気が充満してきたので消火作業を放棄し、屋外に避難している。	消 火 し な い	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input checked="" type="checkbox"/>	(理由又は状況) 火災を発見した従業員達は、手元にあったビールびんを投げつけたり、消火器を放射したり、ある者は階段口の屋内消火栓からホースを引き出して消火しようとしたが、ホースが切離してあったため結合に手間どった上、せっかく延長したホースも火点に届かなかったりして右往左往しているうち、火は更衣室の板張り区画を燃え抜けて、吹抜部から上階に火勢が伸び、濃煙と熱気が充満してきたので消火作業を放棄し、屋外に避難している。				
消 火 し な い	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>					
④ 消 火 活 動 概 要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <p>○先着隊到着時、4階以上は猛煙と熱気のため進入が困難な状況であった。 ○梯子車により5階への延焼阻止と人命救助にあたらうとしたが、全伸梯17mでは4階ひさし程度までしか届かず5・6階への進入はおろか5階部分への有効注水も困難であった。</p>					

	避難方法	避難上支障事項
⑤ 避難 状 況	○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (18人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓、開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> (人) ○救助 <input checked="" type="checkbox"/> (7人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人)	○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	○4階にいた従業員は、初期消火を断念した後、階段から全員屋外へ避難している。 ○6階の10畳間でテレビを見ていた従業員H(22才)は長男の知らせで火事を知り、表階段から5階まで降りたが猛煙が噴き上げてきたため比較的煙の薄かった裏階段から地上へ避難している。 ○屋上プレハブにいた4人と6階にいた長男、弟2人は屋上に避難し救いを求めているところを消防隊が隣のビルから投げた救助ロープを長男が屋上の金網に結び、一人ずつ綱渡りして隣のビル屋上へ避難した。	
⑥ 死 者 の 状 況	健康人 12名 (泥酔者 名) 要保護者 名 [乳幼児 名] 高齢者 名 身体不 自由者 名 病人 名	避難上支障となった事項 ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	焼死体のあった6階は階段付近の一部を除いて焼きが認められず、死者の身体及び着衣にも焼損の痕跡はなく、ほとんどの者が身仕度をととのえており中にはハンドバックやブラシを握って倒れている者もあるところから、火災を知り、避難を開始しようとした時急速に異常状態におちいり一酸化炭素中毒により、ばたばたと倒れたものと思われる。	
IV 問題点・教訓等		
1. 自動火災報知設備を設置しながら受信機の電源を遊技場閉店時に切断していたため全く役立たなかった。 2. 金井ビルには、地階、1階、2階、3・4階にそれぞれ支配人がおり、キャバレーの支配人が全館の防火管理者となっていたが、相互の連絡がなく訓練・防災教育等もおこなわれておらず、防災意識が従業員に徹底していなかった。したがって火災を発見し初期消火した従業員達は、誰一人として通報や5・6階居住者へ火災を知らせなかったばかりか到着した消防隊へも自己本位に「全員避難した」と告げている。このため屋内検索の氣勢をそぎ、結果的に時期を失することになった。 3. 一般的に耐火・不燃化建築という言葉に安心感を覚え、避難行動に敏速性を欠いた。 4. 階段は2箇所あったが2つとも防火区画されておらず、反対に煙の伝播経路となってしまった。 5. 屋上にプレハブ住宅を建てたため、階段を通じて容易に延焼し、かつ屋上避難の障害となった。		





6 階



3 階

ベニヤクロス張り